

# 池田 良穂 (大阪経済法科大学) の 新クルーズ学

33



前回の本コラムでは「ばしふいっくびいなす」のコロナ対策後のトライアルクルーズに乗船したことを紹介したが、年末には「にっぽん丸」の3泊4日の別府・瀬戸内海クルーズを日本クルーズ&フェリー学会のメンバーとともに楽しむことができたのでご紹介したい。

この船のコロナ対策も万全だった。乗船前のPCR検査でスクリーニングをしているのは基本的に陰性者のみ。乗船時の検温のほか毎日一回の検温があり、熱があると船医の診察を受け感染の可能性

がなければ船室への隔離となる。乗船の募集は定員の半分以下として食事テーブルを囲むのは同室者が基本となっていた。同船の一般的な料金は1泊あたり4万円弱だが、この少ない人数ではこの料金ではとても採算がとれない。したがってクルーズ料金は約2倍の設定だったが、GOT



瀬戸内海を航行する「にっぽん丸」のデッキ

## にっぽん丸クルーズ乗船 ウィズコロナ

付けた担当の船員がやっ用で、いたる所で手指の消毒ができるようになってきた。スマホで椅子のQRコードと乗客のクルーズカードをパチリと写し、いっどこで誰と接触したかを記録して、下船後に、万一感染者ができれば濃厚接触者が把握できる体制になっていた。もちろん、乗客はマスクを着

をを広げているという実感は持てない。それでもマスクミソして野党は「GOTOTラベル」が感染拡大の諸悪の源のようなキャンペーンを張っているから驚きた。厳密なエビデンスのもとに判断しなければ国民の生活の基盤となる経済自体を壊しかねない。残念ながら、我が国の科学リテラシーはまだまだ低レベルのようだ。ワクチンの接種は、海外に比べて大幅に遅れている。その分、副反応の実績が増えて安全性が増すという議論もあるが、海外の人をモルモット代わりにしていいのかわりに意見もある。同じくウイルス感染症である天然痘のように、ワクチン接種の広がりですぐに自己を絶滅させることができるかとは分らないが、ワクチンおよび治療薬の普及によって手軽にクルーズができる日が戻ってくることを願っている。